

「電子ブック」を使ってみませんか（続き）

他にこんな電子ブックもあります

丸善eBook Libraryから

細胞工学・別冊・目で見える実験ノートシリーズ バイオ実験イラストレイテッド 7冊セット	学研メディカル秀潤社
化学大辞典 全10巻	共立出版社
ライフサイエンス論文を書くための英作文&用例500	羊土社
食品の生理機能評価法	建帛社
ニュートリノで探る宇宙と素粒子	平凡社
内科学書シリーズ 改訂第8版 全6冊・別巻	中山書店

EBSCO eBook Collectionから

(英語多読)Macmillan readersシリーズ	マクミラン ランゲージハウス.
Harrison's Principles of Internal Medicine 17th	McGraw Hill
看護のための最新医学講座シリーズ	中山書店
AIによる大規模データ処理入門	オーム社
おもしろ遺伝子の氏名と使命	オーム社
北関東地方史研究：生糸と人々の暮らし	日本経済評論社

提供社サイトごとにアクセスする場合は、丸善eBook LibraryまたはEBSCO eBook Collectionへのリンクをご利用ください（前頁【図1】）。本学では各社から約550冊の電子ブックを購読していますが、EBSCOサイトではさらに無料公開されている約3,600冊の図書タイトルも利用することができます。

また、以下データベースにも、多数の図書コンテンツが収録されています。

『ジャパナレッジLib』

「新編日本古典文学全集」，「現代用語の基礎知識」 「imidas」，「会社四季報」ほか辞書・事典が豊富に収録されています。

<https://japanknowledge.com/library/>

『化学書資料館』

日本化学会編纂の「実験化学講座」全シリーズや「化学便覧」「標準化学養母辞典」が閲覧できます。

<https://www.chem-reference.com/>

これらは分厚い図書ばかりですが、電子ブックなら指一本で検索できます。全頁を読む必要のない参考書は、電子ブックを利用することで手軽に情報を探すことができます。

また、図書は貸出中でも、同じタイトルの電子ブックが利用できることもあります。この機会に、便利な電子ブックにぜひ触れてみてはいかがでしょうか。

「ファイルのやり取り」どうしていますか？

教職員用ファイル共有サービスを利用すると、メール添付やUSBメモリに比べて安全なファイル共有が実現できます。教職員であれば、教職員用ファイル共有サービスに保存したファイルは、相手（教職員・学生）の全学認証アカウントを指定して共有することができます。

大容量ファイルに対応

メール添付で送信できるファイル容量（20MB）より大きな容量のファイルを共有できます（10GB/人）。

セキュアな通信

メールと異なり、通信はHTTPSにより暗号化されています。

情報漏洩対策

送信先メールアドレスを間違えても相手がファイルを見ることはできません。

学外ユーザとの共有

学外のユーザとは、複雑なURLを生成して、パスワード付きでファイル共有することもできます（Web公開機能）。

その他にも受取機能や、専用ソフ

トウェア（Proself Disk）などもあります。詳しくは、総合情報メディアセンターHPをご覧ください。

トップ> IT サービス>ファイル共有サービス>教職員用ファイルサービス

（講師 濱元信州）



ギャラリー展示「哲学者・田辺元が群馬に遺したもの～群馬大学中央図書館貴重書コレクション・田辺文庫」を開催しました

—中央図書館—

8月28日（火）～9月26日（水）に、ギャラリーにて、田辺文庫を紹介する展示を行いました。

田辺元（1885～1962）は、京都大学名誉教授で、京都学派を代表する思想家の一人です。晩年を群馬県の北軽井沢で過ごし、遺言で、蔵書の大部分を群馬大学に寄贈してくださいました。

田辺文庫の展示は、昭和42年に開催された記録があるのみで、今回は51年ぶりの展示となりました。今回の展示には、「田辺元記念哲学会求真会」のご協力をいただき、田辺博

士の業績や生涯を紹介することができました。また、8月28日には、田辺元記念哲学会求真会代表の川井博義氏によるギャラリートークを開催し、一般市民や学生のほか、群大OBら19名に参加していただきました。

この展示をきっかけに、田辺文庫についての研究者からの問い合わせも増えています。今後も継続して展示を行うことで、田辺文庫ははじめ当館が所蔵する貴重資料を学内外の研究に役立てていただければと考えています。

（中央図書館 柘植久美子）



きりゅうシネマを上映しました

理工学図書館にて、9月3日（月）～7日（金）・9日（土）にきりゅうシネマを上映しました。きりゅうシネマとは、毎年桐生青年会議所が開催している「きりゅう映画祭」で上映されている短編の作品で、桐生市やみどり市が舞台となっています。

今回は、過去に映画祭で上映された中から4作品をお借りし、理工学図書館1階 Ricomo で上映しました。桐

生キャンパスが舞台になっている作品もあり、実際にエキストラとして出演したという学生や、多くの地域の方々にお越しいただき大盛況のうちに終了しました。

桐生市では他にも様々なイベントや、まだ学生のみなさんにはあまり知られていない魅力もたくさんあるので、これからも図書館を通して市の魅力を伝えていきたいと思いま

—理工学図書館—

す。ご協力いただいた青年会議所のみなさん、ありがとうございます。

（理工学図書館 町田友理恵）



国立国会図書館デジタル化資料送信サービスが利用可能に

—中央図書館—

10月1日（月）より、中央図書館にて国立国会図書館デジタル化資料送信サービスが利用可能となりました。これにより、国立国会図書館デジタルコレクションに収録された約260万点のうち、インターネット公開されていない約150万点の図書、雑誌、古典籍、博士論文などを閲

覧・印刷することができます。

資料リストについて詳しくはこちらをご覧ください。

http://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/index.html

対象：学内者のみ。

利用方法：中央図書館1階ロビーにある専用PCからのみ利用可能です。利用希望の方はサービスカウンターへお申し出ください。

印刷料金：1枚 白黒20円

カラー60円



英語論文投稿セミナーを開催しました

—医学図書館・理工学図書館—

9月13日（木）、9月14日（金）に昭和・桐生両地区にて「英語論文投稿セミナー トップレベルの論文執筆に必要な研究メソッド—インパクトファクターを超えて—」を開催しました。これは、本学の研究、特に若手研究者の支援として、昨年度の「研究者のためのポスターデザインセミナー」に引き続き企画したものです。

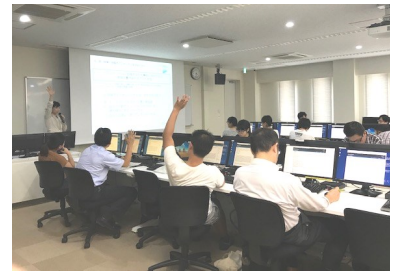
講師にクラリベイト・アナリティクス・ジャパンから石堂きよみ氏を迎え、論文執筆フローに沿って、Web of Science を活用したモデル論

文の探し方、論文執筆と研究の進め方、投稿先ジャーナルの選定方法、査読者とのやり取りなどを具体的にご紹介いただきました。両地区で学部生・院生・教職員136名の参加があり、テーマへの関心の高さがうかがえました。今後も、研究に役立つセミナーを開催していきたいと考えています。

なお、当日のスライド資料は、総合情報メディアセンター Web ページにて学内限定で公開しています。セミナーに参加できなかった方も、ぜひご活用ください。

<https://www.media.gunma-u.ac.jp/support/seminars/WoSseminar2018.html>

（理工学図書館 山内可菜）



ギャラリー展示「師範学校資料で振り返る群馬の明治期教育」を開催中です

—中央図書館—

今年は明治150周年にあたり、当館では記念展示として、群馬師範学校時代（以後、師範学校）の資料を展示しています。

教育学部の前身である師範学校は明治6年に教育伝習所として開設され、所在地と名称を変えながら、戦後群馬大学となるまで群馬県の教員養成機関として、群馬県の教育に大きな影響を与えました。卒業生には「うさぎとかめ」を作詞した石原和三郎や、「うみ」を作曲した井上武士、講談社を創業した野間清治らがいます。

今回の展示では、師範学校時代の

試験問題や現在のシラバスにあたる授業綱要、寮監日誌や運動会の写真など、明治期の師範学校生を知ることのできる資料を紹介しています。また、師範学校・女子師範学校から引き継いだ明治期の教科書約3,000冊のうち、保存状態の良いものを手に取って見られる形で展示しています。ぜひ足をお運びください。

日時：9月28日（金）～11月4日（日）

場所：中央図書館 1階ギャラリー

（中央図書館 柘植久美子）



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学総合情報メディアセンター

荒牧地区：前橋市荒牧町4-2
昭和地区：前橋市昭和町3-39-22
桐生地区：桐生市天神町1-5-1

TEL (027) 220-7170
FAX (027) 220-7184



本コンテンツは、クリエイティブ・コモンズの表示-改変禁止 3.0 ライセンスのもとでライセンスされています。

Webサイト <https://www.media.gunma-u.ac.jp/>

図書館ブログ <http://blog.media.gunma-u.ac.jp/>

Twitter公式アカウント  @Media_Gundai